



# さがまた

No.96

2021.2

Kamogawa  
SEAWORLD

## 鴨川シーワールド 50年史年表

### 1969年

11月12日 アマゾンカワイルカ2頭搬入、公開（日本初）<sup>①</sup>

12月 鴨川シーワールド建設開始



### 1970年

2月・10月 ガンジスカワイルカ計5頭搬入（東京大学ガンジスカワイルカ学術調査隊参加）

4月23日～ 東京湾でシャチの捕獲に挑戦（約10日間）

9月4日 アメリカ、シアトルよりシャチ2頭搬入（日本初）<sup>②</sup>

10月1日 鴨川シーワールド開業<sup>③</sup>



### 1971年

2月17日 スジイルカ保護（千葉県館山市）

3月2日 日本動物園水族館協会に加盟

7月 イルカショーでイルカの「サマーソルト」を公開

### 1972年

1月～2月 東京大学ラブラタカワイルカ学術調査隊に参加

3月 機関誌「さかまた」創刊

5月11日 フンボルトペンギンの繁殖に成功

### 1973年

3月24日 皇太子ご家族ご来館

3月 「動物友の会」（現ドルフィンドリームクラブ）発足

6月14日 ハマクマノミの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞\*<sup>①</sup>）<sup>④</sup>

8月1日～20日 第1回サマースクール開講



### 1974年

3月 沖縄国際海洋博覧会政府出展水族館の飼育展示業務委託（～1976年1月）

### 1976年

1月19日 オーストラリアアシカ3頭搬入、公開<sup>⑤</sup>

9月10日 バンドウイルカの繁殖に成功

9月19日 ベルーガ3頭搬入、10月1日公開（日本初）<sup>⑥</sup>



### 1977年

5月11日 イバラタツの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞\*<sup>①</sup>）<sup>⑦</sup>

7月 イルカショーで「クジラのロデオ」公開

10月10日 入園者500万人達成

### 1978年

8月17日 マンボウ「ナンナン」飼育世界記録達成（426日）

### 1979年

2月 アンコウの周年飼育に成功（4月より公開）

4月 「なかよし広場」（アシカ・アザラシ類、ペンギン類飼育施設）オープン

5月 「マスコットコーナー」（現 マンボウ水槽）公開、マンボウの常設展示開始

### 1980年

2月11日 アイスランドよりシャチ2頭搬入（2回目）

8月17日 入園者700万人達成

### 1981年

6月14日 カリフォルニアアシカの繁殖に成功<sup>⑧</sup>

7月 シャチの「ルーピングキック」公開

8月15日 マンボウ「ノンキー」飼育世界記録達成（971日）

8月31日 オーストラリアアシカの繁殖に成功（世界初、繁殖賞受賞\*<sup>①</sup>）

11月25日～ 第23次南極観測隊に参加<sup>⑨</sup>



### 1982年

8月3日 イチョウハクジラ保護（千葉県富津市）

### 1983年

6月6日 カリフォルニアアシカの人工哺育に成功

10月10日 入園者1,000万人達成<sup>⑩</sup>

12月8日 セイウチ2頭搬入



### 1984年

2月22日 昭和天皇ご来訪

10月4日 キタゾウアザラシ2頭搬入

### 1985年

10月4日 マンボウの「ノロン」と「クーキー」が飼育世界記録達成（1,380日）

10月 「ディスカバリーガイダンス」開始

11月4日 アイスランドよりシャチ2頭搬入（3回目）

### 1986年

3月19日 コマッコウ保護（千葉県富津市）

5月10日 フンボルトペンギンの人工ふ化・育すうに成功

10月2日 アラスカよりラッコ3頭搬入<sup>⑪</sup>



### 1987年

3月21日 「オーシャンスタジアム」、レストラン「オーシャン」オープン、新シャチショー公開<sup>⑫</sup>



### 1988年

3月29日 アイスランドよりシャチ4頭搬入（4回目）

4月15日 タテゴトアザラシ公開（日本初）

7月24日 カナダよりベルーガ搬入（2回目）

10月10日 国際海洋生物研究所設立

### 1989年

3月11日 第1回国際海洋生物研究所 国際シンポジウム開催（1998年まで毎年開催）<sup>⑬</sup>

5月5日 入園者1,500万人達成

12月26日 天然記念物ミヤコタナゴの繁殖に成功



### 1990年

3月5日 マンボウ「クーキー」飼育世界記録達成（2,993日）<sup>⑭</sup>

3月21日 極地ペンギン展示施設「ペンギンズネイチャー」オープン

6月 デザインキャラクター「オルタン」発表

10月24日 ソビエト連邦よりベルーガ3頭搬入

11月26日 新島で保護されたキタゾウアザラシを搬入



### 1991年

11月21日 アルビノのアカエイを搬入（千葉県館山市）

### 1992年

7月 アシカショーで「笑うアシカ」公開<sup>⑮</sup>

### 1993年

1月14日 ラッコの繁殖に成功

4月8日 キタオットセイ保護（千葉県勝浦市）

4月29日 カスピカイアザラシ搬入（日本初）

5月21日 勝浦市で保護したキタオットセイを鴨川沖で放流

7月 動物ふれあい体験プログラム「ひと夏の体験」開始<sup>⑯</sup>

8月7日 入園者2,000万人達成



## 1994年

6月6日 セイウチの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞\*1）

7月31日 ペリカンの園内散歩ほか「アニマ・アウト・ガイド」開始

9月13日 オウサマペンギンの繁殖に成功

## 1995年

1月2日 バンドウイルカ「スリム」国内飼育記録達成（8,467日）  
サンアルピナ鹿島槍スキー場（長野県大町市）へ親善大使としてジェンツーペンギンとオウサマペンギンを派遣

## 1996年

3月22日 秋篠宮殿下ご一家ご来訪

7月30日 ハセイルカ保護（千葉県富山町）

12月21日 「エコアクアROOM」オープン

## 1997年

7月19日 夜の水族館探検「ナイトアドベンチャー」開始

## 1998年

1月11日 シャチの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞\*1）<sup>17</sup>

7月25日 「ロッキーワールド」オープン<sup>18</sup>

8月10日 入園者2,500万人達成



## 1999年

4月4日 バンドウイルカ「スリム」飼育10,000日達成（国内飼育記録更新中）

## 2000年

7月22日 「トロピカルアイランド」オープン<sup>19</sup>



## 2001年

1月26日 ネズミイルカ保護（千葉県富山町）

4月 「ウミガメの浜」オープン<sup>20</sup>

6月 イルカショーで「イルカのフリスビー」公開



## 2002年

6月 東条海岸におけるアカウミガメの保護、調査活動開始

## 2003年

4月25日 カスピカイアザラシの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞\*1）<sup>21</sup>

7月17日 人工授精によるバンドウイルカの繁殖に成功（日本初、繁殖賞\*1ならびに古賀賞受賞\*2）

7月 深海生物展示水槽「外房の海・鴨川海底谷」公開



## 2004年

3月9日 鴨川シーワールド前の砂浜（東条海岸）にゴマフアザラシ「カモちゃん」出現

8月20日 入園者3,000万人達成

## 2005年

4月9日 アメリカ、モンレーベイ水族館との共同研究としてマンボウの標識放流実施

5月 クサフグの産卵調査開始

10月23日 ノコギリザメの出産を確認

## 2006年

2月10日 シャチ保護（千葉県御宿町）

3月 鴨川シーワールド初のビオトープ「メダカの小川」オープン

5月3日 カマイルカの繁殖に成功

12月4日 埼玉県川越市で保護されたキタオットセイ「しんちゃん」を放流のため上野動物園より受入れ

## 2007年

3月8日 キタオットセイ「しんちゃん」を銚子沖で放流

## 2008年

3月25日 ミナミバンドウイルカの衛星標識放流実施<sup>22</sup>

8月9日 エトピリカの繁殖に成功

10月13日 シャチの累代繁殖（飼育3世）に成功（日本初、繁殖賞受賞\*1）<sup>23</sup>

## 2009年

5月 研究発表「座礁したコマッコウの保護と飼育」に対し技術研究表彰\*3



## 2010年

1月10日 ワモンアザラシ保護（千葉県いすみ市）

3月22日 入園者3,500万人達成

7月10日 クラゲ展示施設「Jewelly Corner—海の宝石・クラゲ—」オープン

## 2011年

3月16・17 東日本大震災で被災したアクアマリンふくしまから飼育動物緊急輸送

4月7日 震災により緊急避難していたゴマフアザラシが出産

4月 絶滅危惧種シャープゲンゴロウモドキの系統保存開始

6月26日 震災により緊急避難していたゴマフアザラシが親子でアクアマリンふくしまへ帰還

12月13日 名古屋港水族館へシャチ3頭移送<sup>24</sup>



## 2012年

12月11日 バンドウイルカ「スリム」飼育15,000日達成（国内飼育記録更新中）

3月21日 震災により緊急避難していたトドがアクアマリンふくしまへ帰還

## 2013年

6月23日 バンドウイルカの累代繁殖（飼育3世）に成功<sup>25</sup>

8月14日 ジェンツーペンギンの繁殖に成功

12月 絶滅危惧種ミヤコタナゴの系統保存開始



## 2014年

2月17日 ワモンアザラシの繁殖に成功

3月1日 トロピカルアイランド「Coral Message」と「レストランオーシャン」リニューアル<sup>26</sup>

7月 シャチの水かけ「サマースプラッシュ」開始

8月 ベルーガ「ナック」の人の音声模倣能力が学術誌に掲載（世界初）

10月 ニホンイシガメの保全活動開始

11月4日 トド保護（千葉県山武市）



## 2015年

2月 鴨川市民DAY開始

3月14日 ロッキーワールド地下に「ピリカの森」オープン

7月16日 クラゲ展示新施設「Kurage Life」オープン

## 2016年

3月1日 オイランヨウジの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞\*1）<sup>27</sup>

5月12日 ゴマフアザラシ保護（千葉県一宮町）

5月17日 コブダイの繁殖に成功（日本初、繁殖賞受賞\*1）<sup>28</sup>



## 2017年

5月22日 メガマウスザメ収容（千葉県館山市）

6月1日 シャープゲンゴロウモドキの保全活動に対し千葉県より環境功労者知事感謝状を授与

## 2018年

3月16日 「エコアクアROOM」、「マリンシアター」リニューアルオープン<sup>29</sup>

12月7日 メガマウスザメの全身骨格標本公開（世界初）

9月8日 人工授精によるオウサマペンギンの繁殖に成功（世界初）<sup>30</sup>



## 2019年

4月~5月 シャープゲンゴロウモドキの生息地への再導入実施

5月29日 人工授精によるカマイルカの繁殖（日本初）ならびに人工哺育（世界初）に成功

\*1 繁殖賞：（公社）日本動物園水族館協会の加入園館において、飼育動物の繁殖に成功し、かつ、それがわが国の動物園水族館で最初であったときに、規定にもとづいて授与される賞。

\*2 古賀賞：飼育下において繁殖させることが困難で、世界的にも例の少ない種や、飼育管理において独創的な工夫が認められた繁殖などに対して贈られる賞。上野動物園初園長である古賀忠道博士の業績を記念して制定。

\*3 技術研究表彰：動物園水族館事業の発展に特に寄与する優れた研究発表に対授与される賞。

## 巣立ちをむかえたオウサマペンギン

昨年9月に誕生したオウサマペンギンのヒナが、6月30日に無事に巣立ちました。自然界では親に頼らずに自力でエサの魚を捕まえることができるまでになった時が巣立ちですが、当館ではヒナ特有の茶色い幼綿羽がすべて成鳥の羽毛に抜けかわり、エサを捕まえることはないものの、遊泳可能となれば晴れて巣立ちとしています。若鳥は巣立ち後もしばらくのあいだ親鳥の近くにいましたが、すぐに群れの中にとけこんで自立しています。エサの時間にはどの個体よりもはやく係員に近寄り、アジやシシャモを1日に2kgほど食べています。くちばしのオレンジ色やのど元の黄色の羽毛は成長するにつれ濃い色へと変わります。

海獣展示三課 重原 亜紗美  
Asami Shigehara



## ホトケドジョウの子ども

ホトケドジョウは、本州と四国東部の水田や流れのゆるやかな河川に生息している日本固有種で、体長6cmほどになります。近年、護岸工事などの開発により生息環境が悪化したことで生息数が激減していて、環境省のレッドリストでは絶滅危惧IB類(EN)(近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)に指定されています。2018年から本格的な保全活動を開始し、2年が経過した今年5月31日、展示水そうでふ化した体長5mmほどの稚魚をはじめ確認しました。稚魚はプランクトンや人工餌料などを食べて順調に成長し、現在では50尾が体長5cmほどになりました。ホトケドジョウの繁殖に成功したことによって、鴨川シーワールドの保全活動がまた一歩前進しました。

開発展示課 森 一行  
Kazuyuki Mori



## エトピリカのヒナ

8月11日にエトピリカがふ化しました。ふ化直後の体重は50gほどで、手のひらに収まるほど小さく、ヒナ特有の綿羽と呼ばれるやわらかい羽毛におおわれた姿をしています。親鳥が与えるエサに加えて、イカナゴやシシャモなどの切り身を係員からも与え順調に成長しました。ふ化から60日ほどで巣立ちをむかえた頃には体重が700gになり、綿羽は成鳥と同じ羽毛に抜けかわりました。体が小さなあいだは親鳥に見守られながら巣内で過ごしていましたが、今では他のエトピリカと同様に自由にプールを泳いでいます。くちばしはまだ小さくすんだ色をしていて、立派な成鳥の姿になるにはもう少し時間がかかります。

海獣展示三課 松野 育美  
Ikumi Matsuno



## 開業50周年記念特別レクチャー

2020年10月1日の鴨川シーワールド開業50周年にちなみ、10月の週末ごとに特別レクチャーを開催しました。「50年のあゆみ」、「シャチものしり講座」、「ウミガメの保護活動」、「オウサマペンギンの子育て」に、今回新たに「カマイルカの人工哺乳」を加え、50年の歴史を振り返る内容となりました。過去の映像や写真を見ると、自身で目にしたことがない動物や展示施設の存在に気付かされ、あらためて50年の重みを感じます。みなさまの思い出の鴨川シーワールドはどんな姿でしょうか?これからも動物とみなさまと共に歴史を積み重ねていけるよう、鴨川シーワールドはより愛される水族館を目指し、新たな驚きや感動を提供し続けます。

マーケティング課 杉本 夏子  
Natsuko Sugimoto



▲ベリーブローで水面へむかう「マギー」

オーシャンスタジアムの大勢の観客を前にステージに立ったまま何もできずにただ時間が過ぎてゆく。シャチを担当していた頃に何度も経験したショーの光景です。この困った状況は1頭のメスのシャチによって引き起こされていました。それがマギーです。

マギーは1988年3月、年下のステラ、オスカーとともにアイスランドからやってきました。3頭はオスのピンゴと共に4頭の群として成長し、数年後ピンゴとマギーは成熟年齢をむかえました。野生のシャチの群が年長のメスを中心とした母系集団であることは知られていましたが、その生態が飼育下でどのような形で表れるかは想像できていませんでした。それを嫌というほど思い知ったのがショーだった、というわけです。何かの拍子でマギーが参加を止めると、とたんに残りのシャチたちの動きが止まってしまいエサすら口にしなくなるのです。

こんな状況が続くようになり何か解決の手掛かりがないかと調べていくうち、トレ

ニングは科学的な原理に基づいた学問であることが解りました。海外ではすでに当たり前のように普及していて、この学問(行動科学)はイルカショーではじめて導入されたという歴史もふくめ、専門書を読んで学ぶうちにまさに目からウロコのようにしてショー中に起きていた問題を理解することができました。原因を知ったからといってすぐに問題が解決するほど甘くはありませんでしたが、うまくいかないショーに困り果て、とにかく何とかしたいという思いから行動科学の勉強に向かわせてくれたことは、トレーニングに関する考え方を前進させてくれただけでなく、飼育動物とのより良い関係を考えるようになったきっかけにもなっています。たくさんの苦勞の思い出と共に未熟だった自分への反省の念もわいてきますが、マギーには感謝の気持ちでいっぱいです。

館長 勝俣 浩  
Hiroshi Katsumata



「マギー」の  
シャチの



▲1988年3月29日の搬入の様子。この後「マギー」は長旅にもかかわらず支えるトレーナーを引きずって泳ぎました。

# Kamogawa Sea World NEWS

鴨川シーワールドニュース  
2020/5/1 ▶ 2020/10/31

## 動物友の会月例会

2020年度の5月から10月までの「動物友の会月例会」は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大防止対策のため中止

## イベント

### 館内催事

6/1 ~ 30 鴨川市共同支援事業  
「ウエルカモキャンペーン」  
・鴨川市民に無料開放

7/23 ~ 8/31 エイとサメのタッチングプール



### 館内催事

10/1 ~ 開業50周年催事  
・開業記念特別レクチャー(10/3~11/1)  
・50周年記念商品販売



### レクチャー

5/8 令和2年うみがめに係わる研修会「アカウミガメの産卵と保護」  
主催:千葉海区漁業調整委員会 講師:吉村マネージャー(10名)

10/3、4 開業記念特別レクチャー  
「鴨川シーワールド50年のあゆみ」 2回実施(93名)

10/10、11 開業記念特別レクチャー  
「シャチものしり講座」 2回実施(80名)

10/17、18 開業記念特別レクチャー  
「ウミガメの保護活動」 2回実施(101名)

10/24、25 開業記念特別レクチャー  
「オウサマペンギンの子育て」 2回実施(90名)

10/31、11/1 開業記念特別レクチャー  
「カマイルカの人工哺乳」 2回実施(70名)



### その他

9/23 秋の全国交通安全キャンペーン



●本紙の一部または全部を許可なく転載、複製することは著作権法で禁止されています。

表紙写真:シャチパフォーマンス(右上:オープン当初)